

ご利用にあたって

1. 統計表中の順位は、原則として数値の大きい順につけていますが、数値の小さい順につけているものには「＊」印を付けています。
2. 統計表の下欄には、算出方法、調査時点、資料出所を表示しています。
3. 「関連指標」及び「関連グラフ」部分の資料出所は、原則として主指標と同一です。（主指標と異なる場合にのみ出所を掲載しています。）
4. 資料の中で、「令和（平成）〇年」とあるのは暦年、「令和（平成）〇年度」とあるのは会計年度を示しています。
5. 「人口当たり」「面積当たり」などの人口、面積は、原則としてその年次の10月1日現在のものを用いています。
6. 分子と分母は、原則として同一年次のものを使用していますが、資料の入手状況により、一致していない場合があります。
7. 統計表の数値は、単位未満を切り捨て、または四捨五入しているため、都道府県(市町村)の積み上げと全国計(県計)が一致しない場合があります。また、同一指標であっても、原資料が異なるため、全国指標と鳥取県指標で「数値」が一致しない場合があります。
8. 「平均」を採用している指標は、原則として、該当地域の分子の合計、分母の合計を用いて計算してあります。例外的に、数値の合計を、単純に該当する地域の数で割った場合は、「☆」印を付け区別しています。（下図を参照）

原則（例：出生率 等）

$$\text{県平均} = \text{出生数市町村計} \div \text{人口市町村計}$$

$$\text{市平均} = \text{出生数市部計} \div \text{人口市部計}$$

$$\text{郡平均} = \text{出生数町村計} \div \text{人口町村計}$$

例外（例：財政力指数 等）

$$\text{県平均} = \text{財政力指数市町村計} \div \text{市町村数}$$

$$\text{市平均} = \text{財政力指数市部計} \div \text{市数}$$

$$\text{郡平均} = \text{財政力指数町村計} \div \text{町村数}$$

9. 統計表中の符号は次のとおりです。

「0」、「0.0」…………… 単位未満のもの
「—」…………… 該当数字がないもの、ゼロ
「…」…………… 不詳、資料なし
「△」…………… 減少、マイナス
「×」…………… 数値が秘匿されているもの